令和元年度檜山支部活動報告

はじめに

本年度の会員は１８名でした。事務局体制としては、本年度から町理事制を廃止し、以下の５名体制で事務局運営をしました。

会　　長～松島　　甲(奥 尻 中)　副　会　長～古俣　みきお(北檜山中)
南部副事務局長～佐々木ルリ子(乙 部 中)　北部副事務局長～西村　将志(瀬 棚 中)
事 務 局 長～能代　淳司(江 差 中)

研究大会について

令和元年度最初の記念すべき研究大会を地理的な問題から、本会創立から現在まで唯一の未開催町であった奥尻町で開催することができました。授業提供者は奥尻中学校佐藤智也教諭。グラウンドでのソフトボールの授業を準備していましたが、この日はあいにくの雨模様。屋外で奥尻中生徒たちの有志を見ることはかないませんでした。授業会場を体育館に変更し、授業を行いました。

１１月２３日(金)には今年度２度目の研究大会を江差北中学校で開催しました。授業提供者は佐藤裕子教諭。生徒たちにパラリンピックとの関連も意識づけしながら、シィッティングバレーボールを扱いました。また、事後研究の場では「どさん子元気アップチャレンジ」と授業をどう関連させていくかという点も話題となり、１回目同様、大変有意義な研究大会となりました。

津波館

１回目の研究大会当日の７月１２日は北海道南西沖地震発生から２６年目の日でした。そこで、事後研修後に津波館を参加者全員で訪問しました。担当していただいたガイドの方は２６年前、実際にこの震災を経験している方ということもあり、写真や映像だけでは知りえない大変、貴重なお話をたくさん聞くことができました。また、中学２年生の保健分野で学習する自然災害分野との関わりを参加者同士で確認し合いながら、見学を進めました。

終わりに

地域柄、それほど多くの会員を見込めない中ではありますが、２度の研究大会を開催することができました。また、それに伴う２回の懇親会や津波館などの見学もできましたので、例年以上に中身の濃い活動ができました。

今後も会員相互の親睦を図りつつ、それぞれの授業力向上を意識した活動を行っていきたいと考えています。